

対象	小学校中学年以上
教科	国語科
該当 単元	小学4年～ 読解力を付ける ・段落相互の関係を 捉える
教科書	東京書籍・光村図書等
掲載日	2019.10.22. 朝刊 12版



10597人回答

1 二〇二〇年東京五輪のマラソンと競歩の会場が東京都から札幌市に変更されることが確実な情勢になっている中、本紙はインターネットによる読者アンケート「中日ボイス」で、賛否とその理由を選択肢を示して尋ねた。猛暑による選手への負担を考慮する声が多く、賛成(57・13%)が反対(42・87%)を上回った。

2 賛成では「猛暑で選手の負担が大きいから」と答えた人が61・38%を占め、「猛暑で観客の負担が大きいから」と答えた人が23・91%で続いた。

3 その他の理由では、愛知県（愛知）の公務員の男性（愛知）が「ラグビーワールドカップのように、競技に適した場所です。日本全土でやれば良い」と回答。岐阜県の男性（岐阜）は「地方に分散してイ

札幌で五輪マラソン案

東京五輪のマラソン、競歩 札幌開催に賛成?



4 札幌開催に反対する理由では「選手は東京開催に向け調整しているから」が28・32%で最多。「東京都などの開催準備が進んでいるから」(24・70%)、「観

見を寄せた。日本は今後に役立つ」と意

ンフラ整備をするところ

猛暑…負担考慮の声多く

回答者から寄せられた主な意見

愛知、学生 男性(13)	賛成	選手、観客ともに負担が大きい。そもそも真夏開催ではなく、時期をずらしてほしい
愛知、主婦 女性(45)	賛成	私もフルマラソンを走るが、夏の東京開催は狂気の沙汰。今回の対応で日本は恥を世界に露呈した
三重、会社員 男性(60)	賛成	選手はもちろん大会を運営、サポートする人たちの体調が心配。少しでも危険度を下げるのは当然だ
三重、自営業 男性(58)	賛成	東京一極集中の中、地方振興が求められる時代に、最初から東京でやるのは反対だった
岐阜、会社員 女性(32)	賛成	悠長な対策をする暇があるなら、開催地変更も視野に入れた方が良い。全面的に北海道でやってみては
滋賀、無職 男性(64)	賛成	できることなら東北地方でやってほしかった。日本の五輪なのでもっと地方で開催してほしい
愛知、自営業 男性(57)	反対	東京五輪じゃなくなる。東京のコースを走る前提で選手選考をしたし、選手はそのつもりで調整している
長野、自営業 女性(74)	反対	閉会式が開かれるスタジアムにゴールする喜びがなくなる。選手の意見も聞いていない
福井、無職 男性(65)	反対	札幌の会場設営や宿泊場所の確保が困難になる
滋賀、主婦 女性(71)	反対	東京在住の娘や孫たちとマラソンや競歩を見る約束をしているから

5 その他の反対理由では、戦の準備を進めている人が「続けるから」(24・14%)が続いた。

九月に東京五輪とほぼ同じコースで行われた「マラソン・グランドチャンピオンシップ(MGC)」で男女の

代表各二人が決まったことを踏まえ、愛知県の主婦（愛知）は「MGCをやった意味がなくなる。札幌だったら結果が違っていただ可能性もある」と指摘した。

6 富山県の男性（富山）は「不透明な手順で唐突に進められた感が強い」と選定の経過を問題視。「暑いのは分かっていた。今さら何を」という気がする」と（岐阜県・七十四歳男性）との声も多かった。

7 アンケートは中部九県（愛知、岐阜、三重、静岡、長野、福井、滋賀、石川、富山）の二万五千九十七人が回答した。

購読者向けネットサービス「中日プラス」会員の回答を中心としており、性別や年齢層などを考慮した通常の世論調査とは異なります。

※ 段落のはじめにある数字は、その段落の番号を示しています。

【活用にあって】

説明的な文章を読むときには、段落ごとに何が書かれているかを正確につかみ、それらが互いにどのように結びついているのか考えることが大切です。

文章の内容をつかんで、疑問点や更に詳しく知りたい点などが出てきたら、それはとてもよいことです。新聞はそういったことにも応えてくれます。会場が変更されるという情勢になったというだけでなく、その後どうなったのかということも報道されていきます。また、東京の暑さの中での開催はマラソン・競歩以外の競技でも心配されるということも報道されています。次ページの記事を読んでください。自分の問題意識を新聞記事で追っていくことは、とても大切な学習になります。

解答例

問1：東京五輪のマラソンと競歩の会場が東京都から札幌市に変更されることについての賛否とその理由。

問2：賛成 第2～3段落

反対 第4～6段落

問3：正確に引用できているか確認しましょう。

発展：賛成、反対、それぞれの主な意見を参考にして、自分の考えの根拠を示すことです。

猛暑への懸念から、国際オリンピック委員会（IOC）が二〇二〇年東京五輪マラソン・競歩の札幌開催を打ち出した。土壇場の決定に衝撃が広がっているが、東京の暑さが健康に影響しそうな競技は、他にもいろいろ指摘されている。「アスリートファースト」は、どこへ行ったのか。

（安藤恭子）

現行計画では、暑さ対策として、男女のマラソンは午前六時、男子50^キ競歩は五時半などとする繰り上げスタートとなっている。

ただ、五輪開催期間（七月二十四日～八月九日）の今夏の都心の最高気温は、毎日三〇度以上を記録。湿度や日射を含め、熱中症の危険度を示す「暑さ指数」で「運動は原則中止」とされる「危険日」が、十七日間のうち十四日に上った。こうした状況を懸念し、組織委などは夏場に五輪テスト大会を開いた。

だが、七月に品川区で行われたビーチバレーのテスト大会では、溝江明香選手が「何も考えられなくなつて、脚が動かなくなつて、視界が狭まった」と熱中症のような症状に。

トライアスロンの東京五輪予選で、ゴール後に倒れ込む女子選手たち
 〓 8月、東京・お台場海浜公園で



マラソンは札幌開催案

のラン種目が10^キから5^キに短縮された。東京湾の水質も「臭い」と指摘され、基準を超える大腸菌の検出を理由に、パラトライアスロンのスイムが中止された。

消耗の激しい屋外競技は他にも。ラグビー7人制が開始を午前九時に早めたほか、自転車マウンテンバイクは逆に開始を一時遅らせて午後三時に。サッカーやオープンウォーターも開始時刻を変更している。

組織委は「他の競技については会場変更という話は把握していないが、各競技団体から暑さ対策に向けた要望は受けている。時間の前倒しを含めた新たな対策を十一月初めにも公表する」（広報）とする。

そんな中で決まった札幌移転。スポーツジャーナリストの谷口源太郎さんは「ここまで問題を見て見ぬふりしてきたIOCは無責任」と憤る。観客向けの対策として、組織委などはマラソン、トライアスロン、ビーチバレー、ボート、ホッケーを暑さ対策の重点競技に指定し、ミストシャワーなどの実証実験を行った。都は先月発表した検証結果で、ビーチバレーのテスト大会で救護所を利

猛暑懸念の競技 他にも

用した観客四人が熱中症の疑いだつたと説明。本番でも患者が複数発生する可能性があり、体調不良者を早期に発見できる体制が必要などとした。

沿道に日陰を作るテントや、体を冷やす保冷剤の配布などの暑さ対策も打ち出されているが、人工雪や「涼しい印象を与えるアサガオを並べる」といったものも。「いずれも小手先の対策。招致段階で放映権料を払う米放送局やIOCの意向を受け、日本側が八月開催を認めたことが根本にある。五輪商業主義の犠牲となるのはいつも選手だ」と谷口さん。

スポーツライターの小林信也さんも「札幌案を聞いて、ほっとした。夏のテスト大会やドーハ世界陸上の惨状を受け、IOCがぎりぎりのところでスポーツ人としての良識を通じた。サッカーなど長時間屋外にいる競技も移転が望ましい」と話す。問題視するのは、招致の際の立候補ファイルに、日本側が「晴れる日が多く、かつ温暖で（略）理想的な気候」などと記していたことだ。

「日本が世界にウソをつき続けた結果、今回の事態を招いた。暑さ我慢を競うのではなく、最大のパフォーマンスを発揮することがスポーツの本質。五輪で過酷な環境を強いられ、それが失われることは許されない」

五輪「選手第一」

ズバリ